

ファーストリテイリング(9983)



ー 決算下振れによる発射台低下で目標株価の引き下げ相次ぐ ー

「ユニクロ」を展開するファーストリテイリングが8日に発表した2015年8月期の通期業績は営業利益が前期比9.8%増の1644億円となり最高益を更新しました。しかし、直近予想の2000億円を356億円も下回って着地し、ネガティブサプライズとなりました。そして翌日の株価は10%近い急落となり、ファーストリテイリング1銘柄で9日の日経平均を180円以上も押し下げました。

この決算を受けてファーストリテイリングではアナリストによる目標株価の引き下げが相次いでいます。IFISの決算&業績予想でみると決算発表後の目標株価の引き下げは6社にも上ります。これは前期の業績が計画を大きく下回ったことで、今期の発射台がこれまでの想定よりも低くなり、今期の業績予想を見直さざるを得なくなったためだとみられ止むを得ないといえます。

しかし、356億円の低下のうち178億円は減損・除却損で一時的な損失です。また、残りの半分の178億円は事業の苦戦によるものですが、このうち100億円は6月からの天候不順で夏物販売が振るわず、値引き販売を強化し在庫処分を積極的に進めたため第4四半期3ヵ月間の粗利益率が大きく低下したことによるもので、これも一過性と捉えることができます。

減損や天候不順による苦戦というリスクは今期もありますが、ユニクロの競争力が低下したわけではなく、事業そのものに課題があるということではないことからすると、前期の計画未達はファーストリテイリングの成長に疑問を投げかけるものではないといえます。成長をけん引する中国の前期の営業利益も前期比66%増の386億円と順調に拡大していることから、大きな減損や除却損がなくなると仮定すると今期の会社予想の営業利益2000億円という数字は保守的にみえます。

懸念があるとすれば、値上げにより客数が前年を割り込んでいることです。前期は上期の客数が前年同期比1.6%減、下期が同4.4%減で、通期では前期比2.9%減となっています。また9月も前年同月比4.2%減と低迷したままです。来年の春夏物での値上げの可能性もあるなか、顧客離れが一段と進まないか心配されます。

ご留意いただきたい事項

マネックス証券(以下当社)は、本レポートの内容につきその正確性や完全性について意見を表明し、また保証するものではありません。記載した情報、予想および判断は有価証券の購入、売却、デリバティブ取引、その他の取引を推奨し、勧誘するものではありません。当社が有価証券の価格の上昇又は下落について断定的判断を提供することはありません。

本レポートに掲載される内容は、コメント執筆時における筆者の見解・予測であり、当社の意見や予測をあらわすものではありません。また、提供する情報等は作成時現在のものであり、今後予告なしに変更又は削除されることがございます。

当画面でご案内している内容は、当社でお取扱している商品・サービス等に関連する場合がありますが、投資判断の参考となる情報の提供を目的としており、投資勧誘を目的として作成したものではありません。当社は本レポートの内容に依拠してお客様が取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。

本レポートの内容に関する一切の権利は当社にありますので、当社の事前の書面による了解なしに転用・複製・配布することはできません。

当社でお取引いただく際は、所定の手数料や諸経費等をご負担いただく場合があります。お取引いただく各商品等には価格の変動・金利の変動・為替の変動等により、投資元本を割り込み、損失が生じるおそれがあります。また、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化等により、投資元本を割り込み、損失が生じるおそれがあります。信用取引、先物・オプション取引、外国為替証拠金取引をご利用いただく場合は、所定の保証金・証拠金をあらかじめいただく場合がございます。これらの取引には差し入れた保証金・証拠金(当初元本)を上回る損失が生じるおそれがあります。

なお、各商品毎の手数料等およびリスクなどの重要事項については、「[リスク・手数料などの重要事項に関する説明](#)」をよくお読みいただき、銘柄の選択、投資の最終決定は、ご自身のご判断で行ってください。

マネックス証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第165号
加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会